

I 平成27年度事業報告書

(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)

当財団は、埼玉会館及び彩の国さいたま芸術劇場の指定管理者として、引き続き平成27年度から5年間の指定を受け、質の高い舞台芸術作品を創造、発信するとともに、県民の芸術文化活動の支援に関する取組を実施してきた。

平成27年度は、演劇部門において、看板事業でもある「彩の国シェイクスピア・シリーズ」のほか、世界トップレベルの芸術作品を創造、発信するとともに、児童・青少年向けの作品も提供した。特に、4月に上演した彩の国シェイクスピア・シリーズ第30弾「リチャード二世」については、「第3回ハヤカワ悲劇喜劇賞」を受賞するなど、高い評価を得た。

舞踊部門においては、世界的に活躍する振付・演出家による新作のほか、多彩な身体表現の可能性を探る作品を上演するなど、当劇場でしか見られない独自性をもったプログラムを数多く上演した。

音楽部門においては、世界屈指の巨匠から若手まで幅広く起用した公演の実施のほか、大人から子供まで幅広い年齢層を対象にしたファミリー・クラシックや無料コンサートの開催、音楽を小・中学校の子供たちへ届けるアウトリーチ事業の実施など、多種多様な音楽ニーズに応えた。

その他、小学生とその保護者を対象として彩の国さいたま芸術劇場内の施設や舞台機構等を実際に見て触れることができる「劇場体験ツアー」を行うなど、地域の舞台芸術に対する関心・理解を深めるための事業に引き続き取り組んだ。

また、施設利用に関しては、いずれの館においても、安心・安全に万全を期した適正な管理を行うとともに、アンケートの意見等に迅速に対応した他、財団ホームページ更新に伴い、利用者への広報を充実するなど、利用者サービスの更なる向上に努めた。

なお、埼玉会館は平成27年10月から平成29年3月まで、大規模改修工事により休館となっている。

1 事業の概要

(1) 舞台芸術作品の提供等に関する事業

ア 自主企画公演等及び国内外との交流（60事業）

彩の国さいたま芸術劇場では「創造する劇場」の理念のもと、世界トップレベルの芸術作品を創造、発信、提供した。

また、埼玉会館では、地域の方々に親しみやすい作品を中心に事業を実施した。

(ア) 彩の国さいたま芸術劇場（56事業）

a 演劇部門

蜷川幸雄芸術監督の演出による多彩なラインナップを展開した。

当劇場の看板シリーズである「彩の国シェイクスピア・シリーズ」は、4月に第30弾として歴史劇「リチャード二世」を「さいたまネクスト・シアター」と「さいたまゴールド・シアター」のメンバーによって上演した。また10月には第31弾として喜劇「ヴェローナの二紳士」をオールメール（男性俳優のみ）で上演した。

9月にはロンドン、ニューヨーク公演を経た「海辺のカフカ」の凱旋公演を行った。

2月に公演を予定していた藤田貴大氏書き下ろしの新作「蜷の綿 Nina's Cotton」の公演延期に伴い、代替公演として、4月に上演した「リチャード二世」を再演するとともに、藤田氏が主宰する劇団「マームとジプシー」による「夜、さよなら」「夜が明けないまま、朝」「Kと真夜中のほとりで」を上演した。

児童・青少年向けの演劇作品としては、「KAAT 神奈川芸術劇場」との連携によるカナダ・ケベック州のコンフェティ劇団「秘密のショートケーキ」、「国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ」との連携によるサンクトペテルブルグプラスチックハンドシアター“ハンドメイド”「ハンドメイド」を招聘し、あらゆる世代が鑑賞できる機会を設けた。

また、国際的な舞台芸術の祭典である「フェスティバル/トーキョー」と連携して、パリ市立劇場「犀」を招聘した。

このほか、著名な演出家、俳優を輩出してきた由緒ある学生劇団「オックスフォード大学演劇協会」による「ロミオとジュリエット」や、シェイクスピア作品上演の専門劇場である「シェイクスピア・グローブ座」による世界ツアーの日本公演として「ハムレット」を上演し、原語によるシェイクスピア作品に触れる機会を提供した。

なお、熊谷会館の夏の恒例公演として定着した「松竹大歌舞伎」は、同会館の廃止・閉館を受け、「（公財）熊谷市文化振興財団」との共催公演として「熊谷文化創造館さくらめいと」で実施した。

事業名	実施時期	会場
彩の国シェイクスピア・シリーズ第30弾「リチャード二世」	4月・2月	大ホール
松竹大歌舞伎	7月	熊谷文化創造館さくらめいと
コンフェティ劇団公演「秘密のショートケーキ」	7月・8月	小ホール
「ハンドメイド」	8月	大ホール
オックスフォード大学演劇協会公演「ロミオとジュリエット」	8月	小ホール
シェイクスピア・グローブ座「ハムレット」	8月	小ホール
海辺のカフカ	9月・10月	大ホール
彩の国シェイクスピア・シリーズ第31弾「ヴェローナの二紳士」	10月	大ホール
パリ市立劇場「犀」	11月	大ホール
「夜、さよなら」「夜が明けないまま、朝」「Kと真夜中のほとりで」	2月	小ホール

b 舞踊部門

世界的に活躍する振付・演出家の最新作や国内外で活躍するアーティストによる、多彩な身体表現の可能性を探る作品を提供した。

国内からは、近藤良平が率いる、生演奏、人形劇、映像、コントを展開する人気のダンスカンパニー「コンドルズ」による9回目の埼玉スペシャル公演を上演、同カンパニーの他公演に比べ、よりダンスに比重を置いた質の高い作品となった。

海外からは、北欧を代表する世界的振付家、テロ・サーリネンが、「MORPHED」で彼のダンスカンパニーの初来日公演を行い、初来日ながら首都圏の主要メディアに公演の告知記事や舞台評が掲載されるなど注目度の高い公演となった。秋には、1980年代からフランスの新しいダンスの流れを牽引してきたダニエル・ラリーユが、仲間のダンサーたちと創作したユニークな作品「En Piste」を上演、他の劇場にはない当劇場ならではの独自のプログラミングに高い評価がよせられた。

また、年明けにはイスラエルを代表する世界的振付家、演出家のインバル・ピントとアヴシャロム・ポラックの作品「DUST」を上演、新たな客層を開拓した。

このほか、振付家、ダンサーの岩淵多喜子による、県内中学校の生

徒を対象にしたダンス・ワークショップを平成26年度に引き続き実施し、身体を通じたコミュニケーションと自発的な創造性を重視したプログラムを展開した。

事業名	実施時期	会場
コンドルズ新作公演「ストロベリーフィールズ」	5月	大ホール
テロ・サーリネン「MORPHED」	6月	大ホール
ボワヴァン／ウバン／ラリュエ「En Piste」	11月	小ホール
ミート・ザ・ダンス(岩淵多喜子WS)	12月	県内中学校
インバル・ピント&アヴシャロム・ポラック「DUST」	1月	大ホール

c 音楽部門

彩の国さいたま芸術劇場音楽ホールの音響特性を活かし、世界屈指の巨匠から若手まで幅広く起用して、多様なニーズに応える公演を実施した。また、気軽に足を運べる無料コンサートや参加・育成を目的とした事業も併せて展開した。

注目のアーティストをクローズアップして3年にわたって展開する劇場オリジナル企画「現在(いま)」シリーズは、ヴァイオリンの佐藤俊介による2年目の公演を実施した。

また、若手の中でも選りすぐりのピアニストによる「ピアノ・エトワール・シリーズ」、同シリーズの「アンコール!」公演及びリサイタル・シリーズ「次代へ伝えたい名曲」を継続して開催した。

加えて、最高級の演奏を鑑賞する機会だけでなく、トップ・アーティストからの学びの場も提供した。

世界のトップ・ピアニスト、マリア・ジョアン・ピリスを初めて招聘し、公演後にはアフタートークを実施したほか、ウィーンとベルリンの首席級奏者による「アンサンブル・ウィーン=ベルリン」の公演及び楽器クリニックを実施した。

また、国際的に活躍するメキシコのパーカッション・グループ「タンブッコ」による劇場・県北公演並びにワークショップを開催した。

国際的な活躍も目覚ましいバッハ・コレギウム・ジャパンによる毎年度恒例の劇場公演では、クリスマスの時期に合わせて、ヘンデルの《メサイア》を上演した。

一方、誰でも気軽に音楽に触れられる機会を提供するため、ポジティブ・オルガンを活用した無料のミニ・コンサート「光の庭プロムナ

ード・コンサート」や、オルガンを通じて音楽の普及啓発を図る「みんなのオルガン講座」を引き続き実施した。

また、若い世代に芸術の体験機会を提供する小・中学校へのアウトリーチ事業「MEET THE MUSIC～アーティストが学校にやってくる！」も引き続き実施した。

事業名	実施時期	会場
庄司紗矢香&ジャンルカ・カシオーリ デュオ・リサイタル	5月	音楽ホール
アンサンブル・ウィーン=ベルリン	7月	音楽ホール
次代へ伝えたい名曲(第4回～第6回)	9～3月	音楽ホール
タンブッコ(県北出張ミニ・コンサートを含む)	9月	音楽ホール他
タンブッコのメンバーによるワークショップ	9月	音楽ホール
ピアノ・エトワール・シリーズ(Vol.27～Vol.28)	9月・1月	音楽ホール
ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール! Vol.4	11月	音楽ホール
マリア・ジョアン・ピリス パルティウーラプロジェクト in 彩の国～若き俊英グーアンを迎えて～	11月	音楽ホール
バッハ・コレギウム・ジャパン ヘンデル《メサイア》	12月	音楽ホール
佐藤俊介の現在(いま) Vol.2 ドイツ・ロマン派への新たな眼差し	2月	音楽ホール
ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール! Vol.5	2月	音楽ホール
光の庭プロムナード・コンサート	通年	情報プラザ
みんなのオルガン講座	通年	大練習室他
MEET THE MUSIC～アーティストが学校にやってくる!	通年	県内小・中学校

d その他

好評の「彩の国さいたま寄席」(年4回実施)や、親子で劇場空間に親しんでいただく「劇場体験ツアー」を引き続き開催した。

さらに、県内高等学校の生徒及び公立文化施設の職員を対象とした舞台技術の研修会を実施するとともに、埼玉大学の講座への協力、大学生インターンシップを積極的に受け入れるなど、地域との連携を深める取り組みを実施した。なお、この一環として昨年度から実施している「彩の国レクチャー・シリーズ」は、「地域づくりと文化施設—さいたまの美術館から—」を「埼玉県立近代美術館」との連携により実施した。

事業名	実施時期	会場
彩の国さいたま寄席	4月～1月	小ホール
劇場体験ツアー	1 2月	大ホール
大学生インターンシップ	通年	芸術劇場
舞台技術講座	8月～3月	小ホール
彩の国レクチャー・シリーズ	3月	県立近代美術館
埼玉大学アートマネジメント講座	4月～7月	埼玉大学他

(イ) 埼玉会館（4事業）

埼玉会館は平成27年10月から改修工事に入ることから、これまでに醸成されてきたホールの文化を少しでも再開後につなげるべく、一部の公演については会場を移し、近隣ホールとの連携により実施した。

大人から子どもまで幅広い年齢層を対象にしたファミリー・クラシック、平日昼間のランチタイム・コンサートは、9月までは埼玉会館で実施した。

毎年好評を博しているNHK交響楽団公演については秋の実施となるため、「(公財)さいたま市文化振興事業団」との共催事業として、「さいたま市文化センター」で実施した。

事業名	実施時期	会場
埼玉会館ランチタイム・コンサート(第29回～第30回)	6月・8月	大ホール
埼玉会館ファミリー・クラシック「夏休みオーケストランド！」	7月	大ホール
NHK交響楽団 下野竜也(指揮) 清水和音(ピアノ)	1 1月	さいたま市文化センター

イ 広報に関する事業

(ア) 企画展示事業

彩の国さいたま芸術劇場内の情報プラザ、ギャラリー等を活用し、財団主催事業の紹介や舞台芸術への関心を高めるための企画展示を行った。

a 「さいたまネクスト・シアター」舞台写真展（前年度から継続）

彩の国シェイクスピア・シリーズ第30弾／さいたまネクスト・シアター第6回公演「リチャード二世」に合わせて、「さいたまネクスト・シアター」の舞台写真を展示した。

b 「テロ・サーリネン・カンパニー」舞台写真展

6月に開催した舞踊公演に合わせて、「テロ・サーリネン・カンパ

ニー」の舞台写真を展示した。

c 蜷川幸雄 80 作品ポスター展

蜷川幸雄 80 周年記念作品「海辺のカフカ」及び彩の国シェイクスピア・シリーズ第 31 弾「ヴェローナの二紳士」に合わせて、蜷川監督の 80 周年記念として 70 年代から近年までの 80 作品からなるポスター展を開催した。

d 「さいたまネクスト・シアター」「さいたまゴールド・シアター」「マームとジプシー」舞台写真展

2 月に開催された「リチャード二世」再演及び「マームとジプシー」公演に合わせて、「さいたまネクスト・シアター」、「さいたまゴールド・シアター」及び「マームとジプシー」のこれまでの公演の舞台写真を展示した。

(イ) 財団情報誌「埼玉アーツシアター通信」の発行

財団主催事業などを紹介した情報誌「埼玉アーツシアター通信」を発行した。

公演の見どころや公演の内容を、一般の読者により分かりやすく伝えるとともに、財団の各種ご案内等の様々な情報を掲載し、読みやすく、かつ充実した内容の情報誌を目指し、編集を行った。

a 発行回数、部数 6 回 各 12,000 部発行

b 配布先 財団メンバーズ、サポーター会員、マスコミ、プレイガイド、県内文化施設など

(ウ) メンバーズ事業

会員に財団情報誌「埼玉アーツシアター通信」を送付するほか、主催事業のチケットの優先予約や割引販売などを行うことにより、顧客の定着化とチケットの販売促進に努めた。

会員数 5,424 人（平成 28 年 3 月末現在）

(エ) サポーター会員制度の運営

財団の活動に対し財政面で支援いただく法人等の会員組織「サポーター会員」の運営を行うとともに、会員の拡大を図った。

サポーター会員数 117 社（者）（平成 28 年 3 月末現在）

ウ 資料収集

演劇、舞踊、音楽、映画等の分野に係る書籍、CD、DVD等を収集し、彩の国さいたま芸術劇場の舞台芸術資料室において公開した。

(2) 芸術文化活動の場の提供等に関する事業

利用者が自ら行う芸術文化活動の拠点施設として、彩の国さいたま芸術劇場及び埼玉会館において、多様なニーズに対応するとともに、各施設の持つ機能を効果的に活用しながら施設の貸与を行った。

ア 彩の国さいたま芸術劇場

彩の国さいたま芸術劇場の施設の適正な管理を行うとともに、ホール、けいこ場、練習室等が十分に活用されるよう利用者アンケートの意見等を踏まえた改善を実施するなど、利用者サービスの充実に努めた。

ホール利用においては、貸館セクションと舞台技術セクションの連携を図ることで、技術的な提案を実施するなど、利用者の問い合わせや要望に対し、適切かつ迅速に対応した。また、「劇場等演出空間の運用及び安全に関するガイドライン～彩の国さいたま芸術劇場2013年版～」を引き続き配布し、利用者の安全に対する意識向上にも取り組んだ。

施設利用の促進を図るため、抽選で希望日から外れた利用希望者に対する代替日の斡旋や、施設の利用歴がある団体等へキャンセル情報の提供などに努めたほか、他県自治体や文化施設、県内大学、近隣小学校等の施設見学を積極的に受け入れた。

また、財団ホームページ内の施設利用専用ページにおいて、施設利用者への各種案内を即時に行った他、ホール催物のチラシを掲載するなど、利用者サービスの向上を図った。

一方、電気料金の値上がりへの対策も含め、空調機の停止や間欠運転（電力ピーク時）、照明の間引き、空調の温度設定や運転時間の調整などの節電に努めた。

総来場者数 327,368人

施設の利用状況

施設等の名称	利用可能日数 (日)	利用日数 (日)	利用率 (%)
ホール	1,093	788	72.1
けいこ場・練習室	3,743	3,574	95.5
計	4,836	4,362	90.2

イ 埼玉会館

改修工事休館前の4月から9月は、埼玉会館の施設の適正な管理を行うとともに、ホール、会議室、展示室が十分に活用されるよう利用者サービスの充実に努めた。

一方、電気・ガス料金の値上げに対応するため、利用に支障の生じない範囲で節電等に努めた。また、老朽化による不具合等には、迅速に応急処置などを実施した。

また、大正15年に創設され歴史的にも建築的にも全国に誇れる価値を持つ埼玉会館のブランド力の発信を更に進め、「埼玉会館建築みどころハンドブック」を作成した。9月には「ホールの響き体感・建築セミナー&ミニコンサート」を開催。セミナーのほか埼玉大学管弦楽団の協力を得て演奏実験を大ホールで行い、音の響きの違いを参加者や演奏家に体感していただくとともに、ミニコンサートの場も提供するなど、若きアマチュア演奏家の育成事業としての意図も盛り込んだ。さらに、休館中の3月には、埼玉会館と同じ前川國男氏の設計である「埼玉県立歴史と民俗の博物館」において『前川國男 建築セミナー「埼玉会館」から「歴史と民俗の博物館」へ ～打ち込みタイルと建築的プロムナードに込められた思いを探る～』で講演会のほか施設見学会を実施した。

総来場者数 330,885人

(平成27年10月から平成29年3月までは大規模改修工事のため休館)

施設の利用状況

施設等の名称	利用可能日数 (日)	利用日数 (日)	利用率 (%)
ホール	336	286	85.1
会議室	2,956	2,092	70.8
展示室	522	345	66.1
計	3,814	2,723	71.4

※「総来場者数」及び「施設の利用状況」の数値は、後述(3)アの「各種の活動及び発表の場の提供」による実績を含む。

(3) 芸術文化に係る事業を推進するための付帯事業

ア 各種の活動及び発表の場の提供

多目的ホールである埼玉会館において、芸術文化活動以外の講演会、講習会及びその他の催し物等について施設の貸与を行った。

イ 駐車場の管理運営

施設利用者の便宜を図るため、彩の国さいたま芸術劇場及び埼玉会館において有料駐車場を管理運営した。

ウ その他公益目的事業の推進に資する事業

施設利用者の便宜を図るため、彩の国さいたま芸術劇場及び埼玉会館の施設内において、県の行政財産使用許可を得た上で、飲料販売業者と契約し、自動販売機を設置した。また、施設内及び敷地内での写真や動画の撮影等について対応した。

2 理事会・評議員会の開催

当財団の事業計画、予算、決算の承認、事業の状況報告等を行うため、理事会を3回（5月、6月、3月）、評議員会を2回（6月、3月）開催した。

3 役職員に関する事項

(1) 役員数（平成28年3月31日現在）

（単位：人）

	常 勤	非常勤	計	備 考
理 事 長	—	1	1	
専務理事	1	—	1	県派遣 1
理 事	2	4	6	県派遣 1
監 事	—	2	2	
計	3	7	10	県派遣 2

(2) 職員数 (平成28年3月31日現在)

(単位：人)

	常 勤	非常勤	計	備 考
部 長	1	—	1	
参 事	1		1	
グループリーダー・課長	5	—	5	県派遣 1
主 査	17	—	17	県派遣 4
主 任	15	—	15	
主 事	6	—	6	
技 師	1	—	1	
芸術監督	—	1	1	
プロデューサー	—	1	1	
参 与	—	1	1	
その他非常勤職員	—	1	1	
計	46	4	50	県派遣 5